

国語

■ 現代の国語

■ 言語文化

■ 国語表現

■ 古典探究

■ 論理国語

国 語

現代の国語	必修修科目 2 単位	1 段階
担当者：	教科書： 新編現代の国語（東京書籍）	補助教材等：学習書・ビジュアルカラー 国語便覧改訂版（大修館書店）
課題（レポート） 6 回	テスト 2 回	スクーリング 2 時間以上

1 「現代の国語」とはどんな科目か？

(1) 現代の国語の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- ・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・ 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(2) どんなことを学習するか

- ・ さまざまな分野の評論を読み、論理的思考力を養う。
- ・ 新聞記事や報告書などの実用的な文章を読み、現代の社会生活に必要な読解力を養う。
- ・ 重要語句の意味・用法や常用漢字を身につける。

(3) 国語科からのメッセージ

「現代の国語」では、国語の学びの基本である「読むこと」を重視しながら、社会に出て活躍できる力を養うため、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の言語活動も取り上げます。書写や音読、辞書を引くといった基本的な学習を怠ることなく、確かな言葉の力を育てていくことを期待します。

2 学習の進め方について

(1) 課題（レポート）とテストについて

レポート 番号	テスト	内 容	レポート 番号	テスト	内 容
1	1 次	〈自己を見つめる〉 ・「こそそめスープ」 ・「ルリボシカミキリの青」	4	2 次	〈視野を広げる〉 ・「無彩の色」 〈社会と関わる〉 ・「森で染める人」
2		〈他者に出会う〉 ・「未来をつくる想像力」 ・「水の東西」	5		〈世界とつながる〉 ・「美しさの発見」 〈未来に目を向ける〉 ・「真の自立とは」
3		〈言葉と生活 1〉 ・ わかりやすい説明をしよう ・ 異なる種類の文章を読み比べよう	6		〈言葉と生活 2〉 ・ 発想を広げる方法を使って話し合おう ・ 新聞記事を読んで意見文を書こう

(2) 面接指導（スクーリング）計画表について

回数	月	日	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1			〈自己を見つめる〉 ・「こそめスープ」 ・「ルリボシカミキリの青」	・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。 ・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。
2			〈他者に出会う〉 ・「未来をつくる想像力」 ・「水の東西」	・情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。 ・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。
3			〈言葉と生活1〉 ・わかりやすい説明をしよう ・異なる種類の文章を読み比べよう	・目的や相手に合った分かりやすい説明をする。 ・複数の文章を読み比べ、自分の考えを深める。
4			〈視野を広げる〉 ・「無彩の色」 〈社会と関わる〉 ・「森で染める人」	・色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。 ・自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。
5			〈世界とつながる〉 ・「美しさの発見」 〈未来に目を向ける〉 ・「真の自立とは」	・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。 ・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。
6			〈言葉と生活2〉 ・発想を広げる方法を使って話し合おう ・新聞記事を読んで意見文を書こう	・発想を広げてアイデアを整理し、まとめる。 ・記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめる。

3 評価の観点とその方法および評定について

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	報告課題および試験で評価する。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	報告課題および試験、面接指導で評価する。
主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	報告課題への取り組み、面接指導での態度で総合的に評価する。

国 語

言語文化	必修科目 2 単位	1 段階
担当者：	教科書： 新編言語文化（東京書籍）	補助教材等：学習書・ビジュアルカラー 国語便覧改訂版（大修館書店）
課題（レポート） 6 回	テスト 2 回	スクーリング 2 時間以上

1 「言語文化」とはどんな科目か？

(1) 言語文化の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(2) どんなことを学習するか

- ・現代文・古文・漢文とも、幅広いテーマやジャンルの作品をバランスよく読む。
- ・古文・漢文では、基礎的・基本的事項を確実に学習する。
- ・古典と近現代の言語文化のつながりを意識する。

(3) 国語科からのメッセージ

「言語文化」では、古典から現代文まで、我が国の言語文化のつながりを意識しながら、様々な作品を読みます。書写や音読、辞書を引くといった基本的な学習を怠ることなく、作品のおもしろさを味わい、読書の習慣を身に付けて下さい。言語文化の世界に親しみながら、豊かな言葉を蓄えていくことを期待します。

2 学習の進め方について

(1) 課題（レポート）とテストについて

レポート 番号	テスト	内 容	レポート 番号	テスト	内 容
1	1 次	〈随筆〉 ・「さくらさくらさくら」 〈詩歌〉 ・「冬が来た」「少年の日」 「I was born」	4	2 次	〈小説〉 ・「羅生門」 ・「夢十夜」
2		〈古文入門〉 ・「児のそら寝」 〈随筆〉 ・「徒然草」	5		〈詩歌〉 ・「折々のうた」 〈物語〉 ・「伊勢物語」
3		〈漢文入門〉 ・訓読の基本 ・故事成語	6		〈漢詩〉 ・絶句と律詩 〈論語〉 ・「論語」

(2) 面接指導（スクーリング）計画表について

回数	月	日	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1			〈随筆〉 ・「さくらさくらさくら」 〈詩歌〉 ・「冬が来た」「少年の日」 「I was born」	・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。 ・詩歌に親しみ、深く読み味わう力を養う。
2			〈古文入門〉 ・「児のそら寝」 〈随筆〉 ・「徒然草」	・説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。 ・随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に捉え、それを踏まえて、自分のものの見方・感じ方を深める。
3			〈漢文入門〉 ・訓読の基本 ・故事成語	・漢文の特色を知り、きまりを理解する。 ・格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。
4			〈小説〉 ・「羅生門」 ・「夢十夜」	・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 ・表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。
5			〈詩歌〉 ・「折々のうた」 〈物語〉 ・「伊勢物語」	・特徴的な表現の技法とその効果を理解し、詩歌に表れたものの見方・感じ方を捉え、解釈する。 ・物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉え、文章の展開や表現の特色に注目し味わう。
6			〈漢詩〉 ・絶句と律詩 〈論語〉 ・「論語」	・漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取る。 ・孔子の学問・人間・政治の在り方についての考えを捉え、ものの見方や考え方を豊かにする。

3 評価の観点とその方法および評価について

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	報告課題および試験で評価する。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	報告課題および試験、面接指導で評価する。
主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	報告課題への取り組み、面接指導での態度で総合的に評価する。

国 語

国語表現	選択科目 4 単位	2 段階
担当者：	教科書： 国語表現（大修館書店）	補助教材等：学習書・ビジュアルカラー 国語便覧改訂版（大修館書店）
課題（レポート） 1 2 回	テスト 1 回	スクーリング 4 時間以上

1 「国語表現」とはどんな科目か？

(1) 国語表現の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(2) どんなことを学習するか

- ・言葉を使いこなす力、正確に伝える力、相手を説得する力、わかりやすく説明する力、会話で関係を築く力、議論して物事をまとめる力など、実社会を生きる上で必要とされる表現力を身につけるため、さまざまなレッスンに取り組む。
- ・表現することそれ自体の楽しさを体験する。

(3) 国語科からのメッセージ

- ・「現代の国語」「言語文化」を修得済みであることとします。
- ・「群馬県高等学校作文コンクール」に応募する作品を書きます。（7月中旬に募集要項が発表され、8月下旬を提出締切とします。レポート番号は12になりますが、学習進度に関係なく取り組んでください。）

2 学習の進め方について

(1) 課題（レポート）とテストについて

レポート 番号	テスト	内 容	レポート 番号	テスト	内 容
1	1 次	言葉と出会う①	7	1 次	会話・議論・発表
2		言葉と出会う②	8		読書のひろば
3		伝える、伝え合う	9		表現を楽しむ①
4		小論文・レポート入門	10		表現を楽しむ②
5		自己PRと面接	11		表現を楽しむ③
6		メディアを駆使する	12	清 書	作文（群馬県高等学校作文コンクール）※レポート12の「作文」は提出期限があります。

(2) 面接指導（スクーリング）計画表について

回数	月	日	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1			言葉と出会う①	言葉に関する基本的なルールや留意点を知り、自覚的に言葉を使うようにする。
2			言葉と出会う②	言葉に関する基本的なルールや留意点を知り、自覚的に言葉を使うようにする。
3			伝える、伝え合う	コミュニケーション力を高めるワークを楽しみながら、話したり書いたりして伝え合う練習をする。
4			小論文・レポート入門	自分の意見の理由・根拠をはっきり示しながら論理的に文章を書くことを身につける。
5			自己PRと面接	「自分」を的確に他者にアピールする力を身につける。
6			メディアを駆使する	さまざまなメディアの特性を知り、使いこなす。
7			会話・議論・発表	目的に合った話し方を身につけ、効果的な表現方法を工夫する。
8			読書のひろば	さまざまなジャンルの本に手を伸ばし、読書の楽しさに触れてみる。
9			表現を楽しむ①	言葉の感覚を身につけ語彙力を高めるさまざまな言葉遊びなどに取り組む。
10			表現を楽しむ②	言葉の感覚を身につけ語彙力を高めるさまざまな言葉遊びなどに取り組む。
11			表現を楽しむ③	言葉の感覚を身につけ語彙力を高めるさまざまな言葉遊びなどに取り組む。
12			まとめ	

3 評価の観点とその方法および評定について

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	報告課題および試験で評価する。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	報告課題および試験、面接指導で評価する。
主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	報告課題への取り組み、面接指導での態度で総合的に評価する。

国 語

古典探究	選択科目 4 単位	3 段階
担当者：	教科書： 標準古典探究（第一学習社）	補助教材等：学習書・ビジュアルカラー 国語便覧改訂版（大修館書店）
課題（レポート） 1 2 回	テスト 4 回	スクーリング 4 時間以上

1 「古典探究」とはどんな科目か？

(1) 古典探究の目標

- 「古典」を理解する力を養い、それを通して思考力を高め、心情を豊にし、祖先人が築いた含蓄に富んだ思想や智慧を身につけ、心の糧として現代の生活に役立てることが出来る態度を養うことです。
- 「古典」を読解し鑑賞する能力を養い、古典に親しみを感じ、興味を持って多くの作品に触れようとする積極的な態度を養うことです。

(2) どんなことを学習するか

- 「現代仮名遣い」と「歴史的仮名遣い」の違いを学習し、「歴史的仮名遣い」を正しく読む力を身につけます。
- 古文では重要語や文法の基礎を習得して日本の古典文学を鑑賞し、それらのすばらしさを理解することを通して、古文に対する親しみを増幅するようにします。
- 漢文では音読を繰り返し、平易な漢文の訓読・読解ができるような力を身につけます。

(3) 国語科からのメッセージ

- 各単元の「学習のねらい」を踏まえ、学習の目標をきちんと押さえつつ教科書・学習書を読み、内容をよく理解してからレポートの問題に取り組むようにしましょう。
- スクーリングにはできるだけ出席しましょう。その際、その日にやる所を予習してくると学習の効果がより期待できます。
- レポートの答のわからないところは、簡単にあきらめず熟読して、それでもわからない時は、どういう点が不明なのかをレポートに書き込むようにしましょう。

2 学習の進め方について

(1) 課題（レポート）とテストについて

レポート 番号	テスト	内 容	レポート 番号	テスト	内 容
1	1 次	説話（一）古今著聞集 ・小式部内侍が大江山の歌の事	7	3 次	日記 更級日記 ・門出・源氏の五十余巻
2		随筆 方丈記 ・ゆく川の流れ・安元の大火	8		物語（三）平家物語 ・忠度の都落ち
3		物語（一）伊勢物語 ・初冠・通ひ路の関守	9		評論 玉勝間 ・兼好法師が詞のあげつらひ
4	2 次	説話（二）沙石集 ・児の知恵・いみじき成敗	10	4 次	三国志の世界 ・赤壁之戦
5		和歌・俳諧 ・万葉集	11		漢詩の鑑賞 ・中国の詩
6		物語（二）大鏡 ・弓争ひ・三舟の才	12		不思議な世界 ・織女

(2) 面接指導（スクーリング）計画表について

回数	月	日	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1			説話（一）古今著聞集 ・小式部内侍が大江山の歌の事	話の展開がはっきりした短い説話を読んで、大意把握の力を養う。
2			随筆 方丈記 ・ゆく川の流れ ・安元の大火	随筆を読んで、自然・人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。
3			物語（一）伊勢物語 ・初冠 ・通ひ路の関守	比較的短い歌物語を読んで、古文に親しむ。歌物語における和歌の役割を理解する。
4			説話（二）沙石集 ・児の知恵 ・いみじき成敗	中世の説話を読んで、編者の伝えたいことを理解する。
5			和歌・俳諧 ・万葉集	和歌の優れた表現に親しみ、そこに込められた思想や感情を読み取る。
6			物語（二）大鏡 ・弓争ひ ・三舟の才	歴史物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。
7			日記 更級日記 ・門出 ・源氏の五十余巻	日記を読んで、作者の自然・人間・社会などにたいする思想や感情を読み取る。
8			物語（三）平家物語 ・忠度の都落ち	軍記物の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。
9			評論 玉勝間 ・兼好法師が詞のあげつらひ	作者の論理を理解し、主張の中心となる考えの一端に触れる。
10			三国志の世界 ・赤壁之戦	少し長い文章を読んで、漢文に親しみを持ち、話の内容を理解する。話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。
11			漢詩の鑑賞 ・中国の詩	漢詩の表現の美しさを味わい、そこにうたわれているものを的確に捉える。
12			不思議な世界 ・織女	七夕伝説由来説話の一つを読み、古代中国人の想像力と天に対する考え方に触れる。

3 評価の観点とその方法および評定について

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解・関心を深めようとしている。	報告課題および試験、また面接指導等で評価する。
思考・判断・表現	古典を読んで、思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	報告課題および試験、また面接指導等で評価する。
主体的に学習に取り組む態度	伝統的な言語文化および言葉の特徴や決まりなどの理解を深め、知識を身につけている。	報告課題への取り組みや、面接指導での態度等で、総合的に判断する。